

# 湾曲する光芒

1180157 三崎 遼太

指導教員 吉田 晋

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

ライン”が建設され栄えた。しかし、時間の流れと

## 1. はじめに

私の出身地である徳島県阿南市は、日亜化学工業の本社があり、LED(発光ダイオード)発祥の地として、その名を広めた。LEDは白熱電球、蛍光灯に続く“第4の明かり”として登場し、消費電力が少なく、寿命が長いという利点によって急激に普及した。また、阿南市は「光のまち」をPRしており、様々なLED作品を制作し、JR阿南駅などの公共施設に常設するなどしている。

## 2. 対象敷地

対象敷地は徳島県阿南市に位置する津乃峰山山頂付近とする。日亜化学工業本社と辰巳工場と計画地が三角形で結ぶ位置にあり、およそ中心部に市街地が存在している。



図1 対象敷地

## 3. 現状

### 3-1. 問題点

津乃峰山は、かつて高度経済成長期に、「マイカーブームを見越して3.7kmの有料道路”津乃峰スカイ

ともに利用者は減少し、同時期に建設された国民宿舎や結婚式場は廃墟と化した。

### 3-2. 潜在的な魅力

山には遊歩道があり展望台へと続いている。展望台は整備がされていないが、南方面には橋湾に広がる工場夜景や、北方面には中心市街地の景色が一望できる。

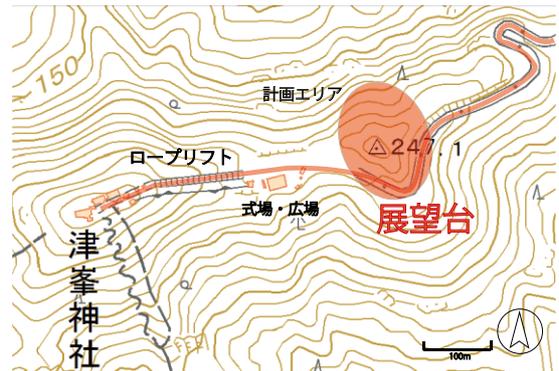


図2 敷地の概要(出典:「国土地理院の電子地形図(タイル)にエリア名称、施設名を追記して掲載」)

## 4. 設計方針

### 4-1. 提案の方針

光のイノベーションの原点とも言える地に、光のまちのシンボルとなる美術館を設計し、光のまちとしての発信を図る。また、アートの鑑賞から宿泊までLEDを使用し、一貫して光を感じられるひとときを体験出来る場を計画する。

### 4-2. 建築物の方針

自然、建築、光が融和するように、敷地の形状を読み取り、建築の威圧感が強くないよう設計す

る。建物の一部を地面に埋め込無などして、屋上部分を展望台にすることでこの場所が持つ風景を活かす。また、湾曲した壁や、曲線的な建築を取り入れ、LED 照明の持つ、柔軟性やコンパクトな特徴と組み合わせることにより、光と建築のアクセントのある内部空間とする。

## 5. 設計内容

### 5-1. 配置図

傾斜の緩やかな地形に平面を広げ、尾根や等高線に沿って伸びる有機的な形状に、それぞれを流線通路で繋ぎ、回遊性をもたせた。主な機能として、3つの展示室、レストラン、ミュージアムショップがある。その他、美術館と同じく有機的な形状の別棟のゲストルームを2棟設け、アプローチとして、既存の遊歩道を活用した。



図 3 配置図

### 5-2. 流線通路

アーチ状の層によって隙間を作り、壁の間に LED 照明を隠し、光源を見せないことでやわらかな光が空間を彩る。刻々と色を変えることで様々な表情を演出する。床面の両端には薄い水盤を設け、変化する色とともに水面で揺らぐ光を感じられる。(図 4)

### 5-3. 展示室①

曲面の壁に LED ビジョンを設置し、展示物によって演出を変えることができる。高く天井高を取り、連な

るリングの曲面での演出、様々な方向からの照射を可能とした。また来館者は展示物を囲む通路から展示物を観覧し、違った角度からビジョンと展示物を見ることで移ろう感覚の変化を感じてもらいたい。(図 5)



図 4 流線通路イメージパース 図 5 展示室①イメージパース

### 5-4. 展示室②

薄い不均一な波状のキャンチレバーを壁面に取り付け、表面の小口に LED 照明を用いる内部空間。内部に近づくほど暗くなる空間と壁面に近づくほどほのかにエッジ光る空間のコントラストが来館者に非日常性を感じさせる。(図 6)

### 5-5. 展望台

展望台では自然に囲まれながら橋湾の夜景とともに、LED の光を感じられる体験ができる。(図 7)

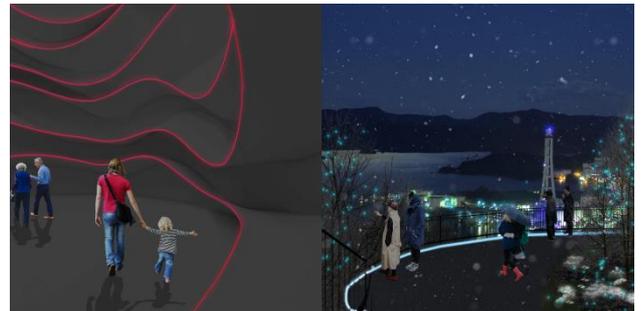


図 6 展示室②イメージパース 図 7 展望台から橋湾を臨む

## 6. まとめ

曲線的な建築が生み出す、内部空間や外部空間と LED 照明の関係を考えることで、LED のフレキシブルな特徴を建築意匠の機能の一つとして、魅力的な空間をつくり出すことができた。光のまちとして、LED の魅力を発信しつつ、この土地が本来持つ魅力を活かすことができるような美術館を計画した。